2019年度 天田財団 助成研究成果発表会

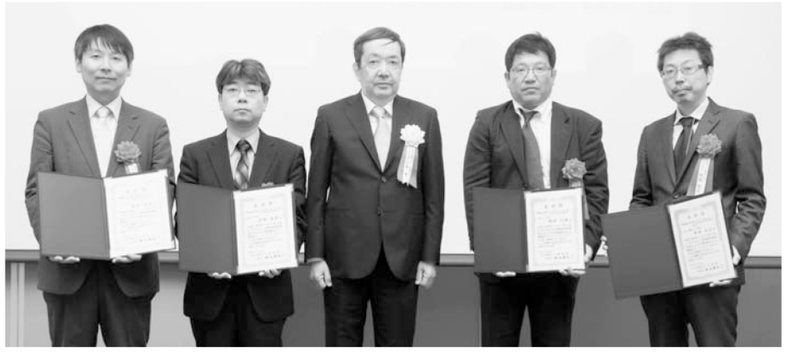
天田財団（岡本満夫代表理事理事長）は、助成した研究成果の普及啓発に積極的に取り組んでいる。ここでは4月24日と6月7日に開催した助成研究成果発表会を報告する。

第3回天田財団 レーザプロセッシング助成研究成果発表会

各種レーザプロセッシングの現状と発展

天田財団は4月24日から26日までの3日間、パシフィコ横浜で開催された「OPIE'19」に出展。助成研究成果報告書、FORM TECH REVIEW（財団機関誌）、財団ニュースなどを配布し、財団が行っている公益事業の紹介や研究成果の普及啓発を積極的に行った。「OPIE'19」は併設イベントも多く、光学関連の国際会議「OPIC2019」も同時開催されることから、国内最大規模の光学関連展示会となっている。

天田財団は同展示会の公式併設イベントとして4月24日13時からパシフィコ横浜のアネックスホールにて「各種レーザプロセッシングの現状と発展」を特集テーマに「第3回天田財団レーザプロセッシング助成研究成果発表会」をレーザー学会とレーザ加工学会の後援のもと開催した。参加者は定員120名を大きく超える150名。



奨励論文賞受賞者

主催者を代表して天田財団の佐藤雅志専務理事が挨拶と同成果発表会の趣旨説明を行い、その後、岡山大学の岡本康寛准教授が「銅の微細レーザ溶接における光吸収特性と溶け込み深さの安定化に関する検討」、熊本大学の山﨑倫昭教授が「Mg合金表面へのレーザー照射による高耐食MgO被膜形成」、京都大学の橋田昌樹准教授が「フェムト秒レーザ加工の加工効率向上に関する基礎研究」、京都工芸繊維大学の飯塚高志准教授が「銅／アルミニウムの突合せレーザ接合材の接合界面の微小構造と成形性」について助成研究成果をそれぞれ発表した。

休憩をはさみ、大阪大学の片山聖二名誉教授（天田財団評議員）をコーディネーターとして、パネリストに、研究界側から岡本康寛准教授、橋田昌樹准教授、産業界側から三菱重工業総合研究所フェローアドバイザーの石出孝氏、アマダホールディングス技術研究所所長の迫宏氏を加え、特集テーマに対して、それぞれの立場から意見を交換。最新の研究や技術の動向を発信するパネルディスカッションが行われ、会場からもそれらに対してさまざまな意見が出て、議論が深まった。

最後に、発表された4名の研究者に対して慶応義塾大学の小原實名誉教授（天田財団評議員）より「天田財団奨励論文賞」が授与された。

発表会終了後、会場をヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルへ移し、懇親会が開かれた。オプトロニクス社の大澤哲夫代表取締役社長の乾杯の発声で開演、産学交流の場として大いに盛り上がった。

来年は「第4回 天田財団レーザプロセッシング助成研究成果発表会」もOPIE'20の公式併設イベントとして、2020年4月22日に開催する予定であることを天田財団の萩原事務局長より発表され、閉会した。

第17回天田財団 塑性加工 助成研究成果発表会

塑性加工における摩擦と潤滑

優秀論文賞受賞者

天田財団は6月7日13時から同志社大学の京田辺キャンパスにて、6月7日から9日に開催された、日本塑性加工学会の19年度塑性加工春季講演会に「塑性加工における摩擦と潤滑」を特集テーマとして「第17回天田財団塑性加工助成研究成果発表会」を日本塑性加工学会、アマダスクールの後援のもと同時開催した。参加者は100人。

主催者を代表して天田財団の佐藤雅志専務理事が挨拶と同成果発表会の趣旨説明を行い、その後、東京電機大学の柳田明教授が「ホットスタンピングにおける潤滑特性と影響因子の検討」、日本大学の高橋進教授が「プレス成形時の高速成形における摩擦特性計測」、鹿児島大学の上谷俊平教授が「冷間アルミニウム押出し製品曲がり量とトライボロジカル制御」、岐阜大学の王志剛教授が「塑性加工における摩擦法則の構築」について助成研究成果をそれぞれ発表した。

その後、本年度の塑性加工学会・学会大賞を受賞した名古屋工業大学の北村憲彦教授が「厳しい条件の塑性加工における潤滑技術開発」と題した特別講演を行った。

さらに、柳田明教授がコーディネーターとなり、パネリストに講演者の北村憲彦教授、高橋進教授に加え産業界からトーカロ神戸工場製造課の舟本幸大氏、大同化学工業第三研究室長の黒田将文氏が参加し「塑性加工における素材・金型・潤滑の課題と期待」をテーマに、聴講者も巻き込みながらパネルディスカッションが行われた。

続いて、静岡大学の中村保客員教授（天田財団理事）より4名の講演者へ「天田財団優秀論文賞」が授与された。

発表会後、多々羅キャンパスのフィリップスホールに会場を移動して、産学の交流を深める懇親会が開かれた。中村保客員教授の乾杯の発声で始まった懇親会会場には、職業訓練法人アマダスクールが毎年開催している「優秀板金製品技能フェア」にて昨年度創設され、2年連続で「日本塑性加工学会会長賞」を受賞した西野精器製作所（茨城県ひたちなか市）の作品が展示され、参加者の関心を集めた。

最後に、神奈川工科大学の遠藤順一名誉教授（天田財団評議員）が、天田財団の公益事業の実績やその意義を改めて強調して、閉幕した。

募集 研究開発・国際交流 若手研究者に助成金

天田財団では、6月10日から7月31日まで、金属などの塑性を利用した加工およびレーザプロセッシングに関する19年度の研究開発助成・国際交流助成の募集を行っている。若手研究者（39歳以下）限定の助成プログラムも含め、助成総額は2億7500万円を予定している。申し込みは天田財団ホームページにて、研究者登録後、希望の助成プログラムを選択する。問い合わせは、ホームページ、または0463・96・3580へ。

PR

公益財団法人
天田財団
THE AMADA FOUNDATION